

令和3年2月25日 14:00～ 於:校長室

※委員(敬称略)

氏名	所属
山田 博	前帝塚山学院大学AO
佐野 将哉	ハートピア泉北 施設長
井上 雅史	太平寺地区自治会
島木 伸也	堺市立福泉中学校 校長
西村 恵	PTA会長
西口 尚志	同窓会会長
西浦 達雄	放送芸術学院専門学校

※事務局

氏名	校務分掌等
村田 幸男	教頭
増田 実	事務長
花城 三喜	首席
谷口 政人	教務部長
西川 道治	生活指導部長
山本 勝久	進路指導部長
大木 茂	生徒会部長

1、学校長挨拶

ふりかえればコロナにふりまわされた一年だった。卒業式を来週に控えているが、今年是对策を徹底し保護者も参列していただけるよう準備している。令和4年度には本校の創立40周年を迎える。令和3年から本格的に記念事業の準備を進めていく。

2、委員長挨拶

とにかくたいへんな年度だったことと思う。授業そのものが6月スタートであった。誰も経験したことがない、先が見えないつらい状況の中で、生徒たちを導いてくれた先生方に敬意を表したい。

3、今年度の学校評価・来年度の経営計画について [学校長]

授業に関心興味を持てたという回答の数値は昨年度よりアップした。本校の授業改善グループ「オープンクラス」の教員間の授業見学も活発化した。また、コロナの影響もあり、WEB授業などを通じて、教員が今まで以上にわかりやすさを追究する姿勢や技術が向上したと思われる。

進路指導では、外部との接触が制限され、企業訪問や各種説明会なども一部実施できなかったが、内容や時期を変更するなどの対応をおこなった。就職関係では求人数減の中、非常に健闘したと思う。

生活指導では、目標としていた遅刻件数はクリアできていない。結果を分析しながら、引き続ききめ細かに指導をしていく。クラブ活動では、部活定着率が向上している。魅力あるクラブ活動づくりをしていきたい。

コロナの影響で、インターンシップや先生方の近隣校との教員間交流なども見合わせた。本校では毎朝、教員全員のミーティングを実施している。こんな時だからこそ、今後も継続実施し、情報の共有を進めていく。

4、今年度の取組み状況について [事務局]

- ・進路指導部:進学者数は増加し就職者数が減少した。求人数は昨年比で大きく減少した。なかでも観光アパレル関係は激減した。希望職種にこだわりがあり、アルバイトを継続し就職の機会を待つ生徒もいる。内定率については、大阪府下の平均値よりも良い結果を残すことができた。
- ・生活指導部:遅刻数一万件以下の目標は達成できなかった。懲戒件数は減少し、無期停学は0件だった。
- ・教務部:新学習指導要領に則った新しいカリキュラムがR4年度から始まる。また、新しい評価方法の観点別評価の導入も控えており、その準備も進めている。
- ・生徒会部:コロナの影響で、全校生徒が集まる機会のない年度になった。体育祭を実施することができず、文化祭も制約が多い中での実施だった。来年度は、形態を考えながらも実施できることを願っている。

- ・学校教育自己診断アンケート(三者比較):保護者からの回答率が減っている。対策を考えたい。学校ルール遵守や部活動の状況など、いくつかの項目に、教員と生徒・保護者との間の肯定感に差がある。
- ・防災備蓄品・施設整備等:ビスケット・飲料水・毛布・簡易ベッドなどの品目を追加購入予定である。本校は地域の二次避難所に指定されており、校内に堺市管轄の備蓄庫が設置された。校内外の設備改修関係では、ブロック塀がフェンス塀になり、体育館には空調が付いた。トイレ改修は次年度に実施の予定。

5、保護者からの意見書について 特になし

6、意見交換・協議

委員:歯の治療に消極的な人が増えているという話をきく。歯の大切さは若い時は気づきにくいもの。歯科医の講話などわかりやすい話で訴えかけてもらうと効果的だと思う。

校長:今年度は、講話型ではなく、歯科医が各教室をまわり、生徒とやりとりをするスタイルで実施し、生徒にも好評だった。

委員:学校の外の世界に向けた取組みをもっと取り入れてほしい。例えば、SNSによるいじめや誹謗中傷の問題、大麻その他違法薬物の問題など。また、IT化をさらに進め、専門家による学習を取り入れてほしい。

委員:遅刻件数がとても多いようだが、遅刻をしない生徒もたくさんいると思う。グラフなどを用い、それがわかりやすい資料になればよい。

事務局:参考にさせていただきます。懲戒の内訳は喫煙とバイク通学が多かった。

委員:ここの生徒だけでなく、全体的に、ひとに迷惑かけてはいけないという当たり前のことを教えてもらっていない若者が増えた。

委員:大学生でもマナーが悪い者が多くなった。先生方はとても苦労されていることと思う。

委員:一口に言う「最後は大人がなんとかしてくれる」といった甘えの意識が強い若者が増えたように思う。

委員:介護職を希望する生徒はいなかったのか。その他の傾向は。

事務局:今年度はたまたま介護職にすすむ生徒がいなかった。進学では昨年卒業した生徒が、近畿大学と関西大学に合格した。求人票の内訳は、指定求人が減り公開求人が増えている。人手不足下で広く人を募るという流れがある。

委員:制約が多く普通科高校改革は難しいようだが、専門コースを考える際はそのネーミングが大切。いろいろ大変かとは思いますが、がんばってほしい。

事務局:コースについては、現在検討しているところ。また、観点別評価の導入には戸惑うことも多いが、各教科にも検討をしてもらい、スムーズに実施できるよう準備をすすめている。

委員:クラブに入る生徒が増えるために、例えば新しいジャンルの部活があればと思う。例えばEスポーツのクラブがあれば、やりたいと言ってくる生徒は多いと思う。

校長:生徒が挑戦したいことを支援してゆく。

